

「授業改善プロジェクト」研修報告書

所属 南国市立鳶ヶ池中学校

氏名 池 明子

R G J H 5

1 研究の背景

- ・一年生の時から、授業を抜けだし、授業妨害で授業成立が困難な学年であった。一年二学期からクラスを半分に分割し少人数で、二年時からは英語数学の抱き合わせでクラスを分割して授業をしてきた。一人ひとりへの声かけを大切に学年全教員で力を合わせて生徒に関わり、少しずつ学年全体として落ち着いて授業に臨めるようになってきた。
- ・校内の「進路・学習についてのアンケート」結果を見ると、第一学年時は「自分が興味を持って学習しようと思う教科」として英語をあげていた生徒が40パーセントだったのが、第二学年で32パーセント、第三学年で31パーセントである。やはりせめて半数の生徒が英語学習に興味を持てるような日頃の授業にしていきたい。
- ・逆に校内の「進路・学習についてのアンケート」結果の中で、「あなたが不得意な教科はなんですか」の項目に英語をあげている生徒は第一学年で44パーセント、第二学年で43パーセント、第三学年で27パーセントとなっている。不得意意識を持った生徒の数が二年時から三年時に減っていることは、分割にして授業をやったことペア学習や、がんばり表などを使って、授業への意欲をうながす努力をしたことなどが少し成果を出しているのではないと思われる。しかし数人の生徒（学年68人中10人）はやはり授業に入りにくいし、授業に入っても集中できない状態が続いている。

2 リサーチクエスチョン

「なぜ授業に参加しにくいのか」ということを「どうすれば少しでも授業に参加し取り組めるようになるのか」という方向で考え、どの生徒もコミュニケーションができるようになりたいことがアンケートから分かるので、簡単なコミュニケーションテストをALTと一学期二学期と実施した。このテストには授業に参加しにくい生徒もチャレンジした。また自己表現ができるような授業を組み立てることを心がけた。南国市教育研究会の役員なので南国市の英語の先生方と講師の先生とに授業研を見ていただき指導助言をいただいた。リサーチの対象は三年生68人全員。

3 予備調査

- ・CRTの結果 校内研「進路学習についてのアンケート」 一学期末アンケートの結果・・・・・・別紙参照

4 仮説の設定

- 1) 英語弁論大会を実施すれば、生徒は意欲的に英語で文を書いたり、話したりすることに取り組むようになる。
- 2) 簡単なコミュニケーションテストを実施し評価すると、積極的に英語でコミュニケーションをとろうとするようになる。

5 計画の実践

- ・英語の弁論大会に向けて、英語らしい発音を意識するように、二学期のはじめに教科書のリーディングテストを実施。
- ・簡単なコミュニケーションのためのプリントを作って全員に配布。一回目は二週間後にALTと一緒にテストを実施。その後コミュニケーションのプリントを二週間ごとに4

枚配布。しかし二回目以降のコミュニケーションテストの実施はできなかった。

- ・英語弁論大会に向けて、選択英語の時間を使い、下書き、原稿作り、英作に取り組む。平常の授業時にグループ別で弁論大会を実施。ALT、教師、全生徒で評価しすべて個人に結果を返す。その中の6人が文化祭で全校英語弁論大会へ出場。全校英語弁論大会では6人全員にそれぞれの良かったところを、賞の名前にして（Best Intonation 賞など）評価し、総合して最優秀、優秀を表彰した。
- ・また英作文をするための具体的な手だてとしては、夏に田尻先生に教えていただいた英作のための、“どどいつプリント”を一部生徒に渡し、英作時の参考にさせた。

6 実践の結果

- ・リーディングテストを実施したことから、英語の発音を英語らしくすることにこだわりを持った生徒も多い。やはり、指示するだけでなく評価すると生徒は意識が高まると改めて思う。英語のテストでは良い点数がとれるが、リーディング、コミュニケーションでは、がちがちのジャパニーズイングリッシュだった生徒がそれからの脱却をはかろうとするようになったことは良かった。
- ・英語弁論大会実施に取り組んだことで、人とコミュニケーションは苦手と感じていた数名の生徒が、伝えたい自分の気持ちを言葉でイメージし、英文を書き、英語で表現することにまじめに取り組み、クラス大会や全校大会で評価されたことを大変喜び、もっと自由に英語を使えるようになりたいという英語学習への意欲になったことが良かった。
- ・コミュニケーションテストではエスケープしている10人の生徒たちのうち8人までは一回目を受け、チャレンジできた。

7 結果の検証

- ・具体的なデータをとれていないが、一回目のコミュニケーション終了時は、日頃授業に集中しにくい生徒の多くがこのテストで復習していき、点数もとっていきこうとしていた。
- ・また、期末テストでの2回目～4回目のコミュニケーションプリントの部分の結果は、30点中20点以上とれた生徒約80パーセント。

8 成果と今後の課題

- ・英語弁論大会では、当日、授業に参加集中しにくい生徒全員が6人のスピーチをしっかりと聞いた。自由に英語でスピーチできるといいなあと感じさせることができたことは良かったが、彼らにとって、英語で自己表現することは依然として難しいという意識から免れていない。表現することの喜びを与えられるような取り組みと、自己表現するためにはどんな手順でどんな学習をすれば良いかを具体的に明示しなければならない。
- ・コミュニケーションテストでは、英語に苦手意識を持っている生徒や、授業エスケープがある生徒の多くがチャレンジしたことは大きい。しかしテストに時間がかかることから二回目以降実際のコミュニケーションでテストできなかった。定期的に生徒を励ますことができ、時間的にも可能な評価の方法を考える必要がある。
- ・個人のリサーチで授業に参加集中しにくい生徒たちに当たるのは難しくグループや学年学校で取り組むことが必要だと感じる。予備調査や検証という点が個人として弱いことを感じる。個人としてはいつもささやかなりサーチに取り組む習慣を身につけていきたい。そしてできればグループでも取り組めたらと思う。